

標準化推進パンフレット



Contents

知っておきたい！標準とは	1
JASを提案するには	2
インタビュー JAS提案事例紹介	3
国際標準化活動に取り組む	6
【コラム】FAMIC認定制度の活用	6
インタビュー 国際標準化事例紹介	7
【コラム】JASを活用した市場獲得	8
今から始めるCSO設置	9

知っておきたい! 標準とは

標準とは、関係者が公正に利益を受けられるように定めた基準・取り決めのことです。

農林水産・食品分野において、国が定める標準としては、JAS (Japanese Agricultural Standards、日本農林規格)があります。



JASマーク



有機JASマーク



特色JASマーク



試験方法JASマーク

標準の種類



モノの品質



モノの生産方法



事業者の取扱い方法



事業者の経営管理方法



モノの評価方法



用語

皆さんの取り組みでこんなお悩みはありませんか？

- 技術力の高さをPRしたい
- SDGs(持続可能な開発目標)に配慮している製品であることをアピールしたい
- 自社製品の良さをデータで示したい
- 市場が未成熟の新しい製品・技術を普及したい
- 海外マーケットで信頼を得たい

新たなJASの提案で可能性が広がります！

- 生産・取扱い方法に関するJASを制定し、認証マークで自社の取組を見える化！
- 評価方法をJAS化し、自社製品の良さを客観的に証明！
- JASを活用し、新市場を主体的に整備！
- JASを用いて海外の取引相手に自社製品の品質や特色を説明！

JASを提案するには

事前相談

農林水産省又はFAMIC*1の窓口まで相談

相談窓口の連絡先は裏表紙をご確認ください。

JAS化にあたり、次の事項を一緒に検討していきましょう。

制度のチェック

- JAS法の目的
- JAS制度について
- 規格の種類

など

規格のイメージ

- JASの目的と必要性
- JAS制定による効果
- 適用範囲

事前リサーチ

- 国内、国外に似たような規格はないか
- 関係する者や団体の把握

など

*1FAMIC
独立行政法人農林水産消費安全技術センターの略称。

検討

検討体制の検討

関係者等から成るプロジェクトチームを設置し、意見調整を行います。

規格原案の作成

技術的データ等に基づき、規格原案を作成します。

- ✓ 検討に要する費用(会議費、試験分析費等)には、国費による支援メニューが活用できる場合があります。
- ✓ FAMICは、事業者・団体からの要請を受け、原案作成をサポートしています。

申出・制定

規格原案の申出

申出手続に必要な書類を作成し、農林水産省に規格原案の申出を行います。

法令に基づく手続き

パブリックコメント等の手続きを経て、JAS調査会にて審議されます。

制定後

ビジネスツールとしての活用

制定されたJASをビジネスツールとしてご活用いただけます。

- JAS認証を取得し、品質、技術、取組の優位性を取引先に説明する際の裏付けとする など

民間からの提案で
新しいJASが
どんどんできています！

ノウフクJAS

障害者が生産行程に携わった食品JAS

ノウフク(農福連携)は、障害がある人をはじめとする多様な人が、農林水産業などの分野で活躍することを通じて、持続可能な共生社会を生み出す取組のこと。

ノウフクの詳細はこちらから

<https://noufuku.jp/>

○JASの内容

障害者が生産行程に携わった農林水産物及びこれらを原材料として使用した加工食品について、生産方法及び表示の基準を規定。



ノウフクJAS認証品

一般社団法人 日本基金

ノウフクJASの申出者であり、ノウフクJASの登録認証機関の1つ。

ノウフクをもっと広めたい

農福連携の取組をJASにしようと思った背景には、ノウフク製品の付加価値の向上や、人や社会・環境に配慮した消費行動を望む購買層に対する訴求力の増大を図るため、世間にもっと「ノウフク」という考え方を知ってもらう必要があるという考えがありました。ノウフクJAS制定によって、その産品が確かなものであることの説明や証明を容易にすることができるようになりました。

事業者の収益が増加

ノウフクJASの認証を取得した産品には特色JASマークが貼られるため、消費者にもノウフク産品であることが一目でわかるようになりました。特色JASマークによるアピール力向上に加え、ノウフクというブランドを確立することにつながりました。

認証を取得した事業者の方からも、ノウフクJASの意義や認証取得の旨を説明することで、取引が円滑化でき、収益増加につながったというお声をいただいております。

事業者の収益が増加すれば、従業員の賃金にも反映され、従業員のやる気にもつながると考えております。今後も、JASを活用してさらにノウフクの取組が広がっていくことを期待しています。

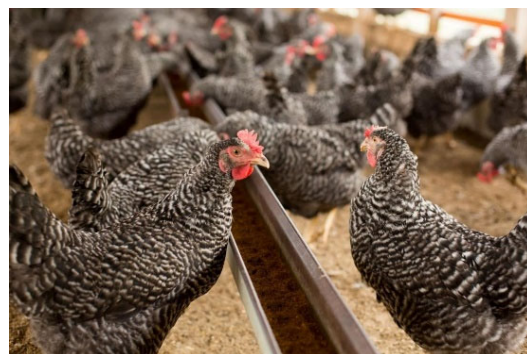
持続可能性に配慮した 鶏卵・鶏肉JAS

○JASの内容

持続可能性に配慮し、国産鶏種・国産飼料用米の利用、鶏ふんの利活用の基準を規定。このほか、アニマルウェルフェアへの配慮、従事者への適切な労働環境の提供などの基準も規定。



持続可能性に配慮した
鶏卵JAS認証品



持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉JASで
使用される国産鶏種

国産鶏普及 協議会

持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉JASの申出者であり、国産鶏種の普及を推進している団体。

国内資源での生産を見える化

日本における大部分の鶏卵・鶏肉の生産は、巨大な外国の育種会社で育種改良され供給されている素びな*²を用い、輸入トウモロコシ等を原料とした配合飼料を給与して飼育するという、極めて海外依存度の高い構造の下に維持されている状況にあります。素びなの輸出国における鳥インフルエンザの発生やトウモロコシの輸出国における干ばつ等の気候変動による海外資源

の輸入が途絶するなどの不測の事態が発生した場合、我が国における養鶏産業の存続が極めて困難になるという懸念がありました。そのため、海外資源だけに依存せずに、国産飼料用米・鶏種の利用、家畜排せつ物を循環利用して生産された鶏卵・鶏肉について、規格が必要であると考えました。

生産環境の向上も目指して

認証を取得した製品には特色JASマークが貼られるため、事業者は持続可能性に配慮して鶏卵・鶏肉を生産していることが証明できます。

今後、このJASの普及により、持続可能な畜産物の生産に対する生産者、消費者等の意識が一層高まり、飼料用米の供給量の増加とともに、家畜排せつ物の利用拡大につながり、このJASが規定する鶏卵・鶏肉の生産が可能な環境が広がっていくことを期待しています。

*²素びな
在来種由来血液百分率が50%以上のものであって、出生の証明ができるものを使用していること。

大豆ミート食品類JAS

○JASの内容

①「大豆ミート食品」

動物性原材料を使用していない製品

②「調製大豆ミート食品」

卵、乳、動物性由来の調味料の使用を認める製品

の2つのカテゴリを定義。

原料のアミノ酸スコア*3、製品の大豆たん白質含有率などの基準を規定。

*3アミノ酸スコア

食品中のたん白質中の各必須アミノ酸含有量が、アミノ酸評点パターンに対してどの程度の割合で含まれているかを比較した値(百分率)の最小値のこと。



大豆ミート食品類JAS認証品

大塚食品 株式会社

大豆ミート食品類JASの申出者であり、大豆ミート食品類JAS認証品を販売している食品メーカーの1つ。

大豆ミートを知ってほしい

昨今、健康志向の高まり、食生活の多様化、サステナブルな社会の実現などの観点からプラントベース製品*4の市場が国内外ともに拡大しております。こうした状況を踏まえ、大塚食品では大豆の新しい取り方である大豆ミート食品について、消費者に分かりやすく情報提供し、商品の選択に役立つものとするため、大豆ミート食品類のJASを提案しました。

また、大豆ミート食品の普及が進むことにより、持続可能な食料供給を可能とする食料システムの構築への寄与が期待できると考えました。

大豆ミートを選択肢に

大塚食品は、日本で初めて大豆ミート食品類JASの認証を取得し、販売しております。大豆ミート食品類JASでは、大豆たん白質含有率などの基準が明確化されています。また、特色JASマークを貼付することになります。これにより、消費者の方は、特色JASマークを目印に、合理的に大豆ミート製品を選択することが可能となっております。

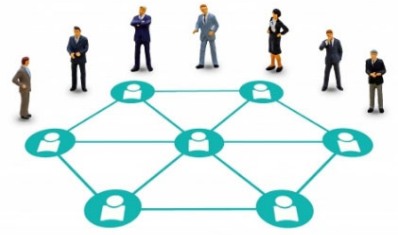
大塚食品は今後も、大豆ミート製品を含め、プラントベース製品の価値を伝えることで、SDGsの達成に貢献してまいります。

*4プラントベース製品
植物性の食材からなる食品全般のこと。

国際標準化活動に取り組む

ISO規格

スイスのジュネーブに本部を置く非政府組織「国際標準化機構 (International Organization for Standardization, 略称: ISO)」が制定する規格のこと。電気・電子分野、通信分野以外の製品やサービスに関する規格のほか、組織の活動を管理するための仕組み(マネジメントシステム)に関する規格が存在する。



国際標準化活動の内容

I 国際規格の議論への参加

各国から提案された規格原案が、日本にとって有利な規格となるよう積極的に議論に参加する。

事例

ISO茶分科委員会(ISO/TC34/SC8)における「緑茶」の規格の検討において、緑茶の定義に抹茶、玉露が含まれるような脚注の追加に成功。

II 国際規格の提案

日本独自の価値、ルールを世界共通の規格として標準化する。

- 日本のモノ、技術を国際的に広げ、一般化したい場合(粗悪品の排除、互換性の確保、市場全体の拡大など)
- 日本のモノ、技術について国際的に共通の「ものさし」を作り、自らの優位性を強調したい場合(性能評価方法など)

提案の方法

① 国際規格原案を作り提案する方法



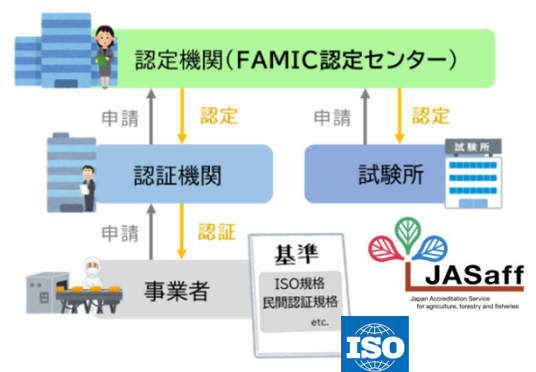
② 国内のコンセンサスをとって制定したJASを国際規格原案として活用して提案する方法



【Column】 FAMIC認定制度の活用

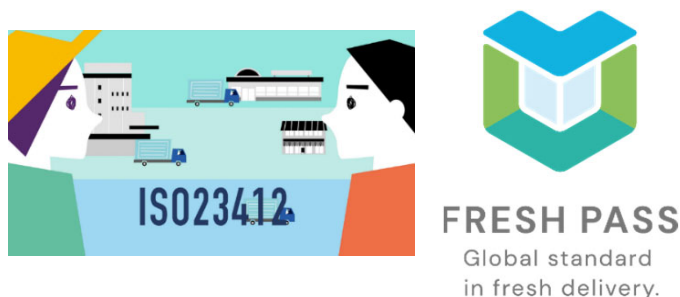
FAMICに設置された認定センター(JASaff)は、JAS法に基づき登録認証機関の審査・調査に従事してきた知見を活かし、農林水産分野を対象とした認証業務を行う機関及び試験業者等の認定を行っています。

JASaffは国際相互承認締結メンバーとして、国際的に通用する認定・認証の枠組みの提供を通じ、JASの戦略的活用を支援します。



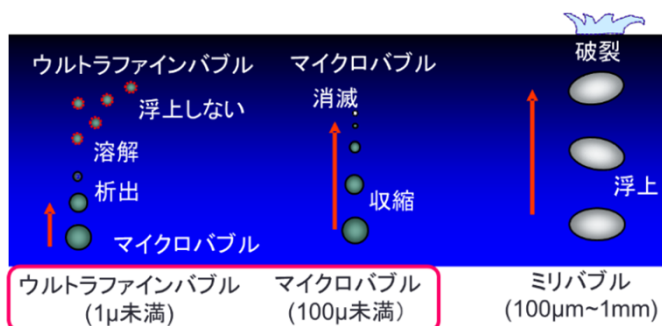
ヤマト運輸 株式会社

ヤマト運輸では、2015年に小口保冷配送サービスに係る標準化の検討を開始、国内外の官民連携により日本発のISOサービス規格の策定を推進。2020年5月にISO 23412(温度管理保冷配送サービス—輸送過程での積替えを伴う荷物の陸送)の発行に至る。現在、コールドチェーン物流分野における標準化活動を継続し、事業モデルでの活用により普及を推進している。



IDEC株式会社

IDECでは、自社製品でもあるイネーブルスイッチをはじめ、ファインバブル*5技術など複数のISO規格提案を行うなど、国際標準化活動に積極的に取り組んでいる。



*5ファインバブル
直径が100 μ m(=0.1mm)より小さな泡のことで、さまざまな業界における活用が期待されている。

*6IEC
国際電気標準会議(International Electrotechnical Commission)のこと。電気及び電子技術分野の国際規格の作成を行う国際標準化機関。

世界の物流をより安全に

ISO 23412:2020は輸送過程での積替えを伴う荷物の温度管理保冷の陸送についての規格です。本規格の発行を目指した目的は、グローバルなサプライチェーン全体で保冷配送サービスの品質を担保することで、消費者への安心・安全な食の提供に貢献できると考えたためです。本規格を普及するにあたって、国土交通省や経済産業省など日本政府を通じた海外政府への働きかけを行うとともに、食品安全分野への働きかけとしてFSSC 22000による「ISO 23412 Addendum」の発行など、積極的な活動を行っています。

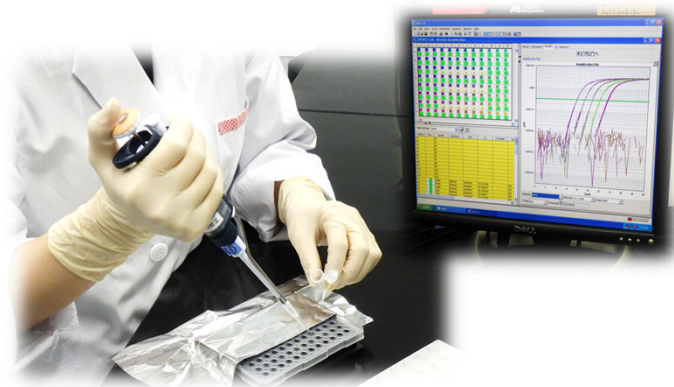
さらに、国際標準化活動を通じて、食品の小口保冷輸送基準を世界規模で構築するためのコンソーシアム「Fresh Pass」を発足するなど、安全で高品質な国内および国際間のすべての流通過程における小口保冷輸送プラットフォームの構築を目指しています。

強みを生かして、安全、ウェルビーイングにつながる技術を国際標準に

IDECでは、2006年のロボット安全装置(イネーブルスイッチ)のIEC*6規格創成をはじめ、事業に関連した様々な分野での国際標準化に取り組んでいます。日本発の革新技術であるファインバブル技術においては、ISO/TC281の設立に携わり、2022年までに15件の日本提案のISO規格発行に日本の主要メンバーとして貢献しました。国際標準化によりファインバブル産業は急成長し、発生・計測分野だけでも国内500億円の市場規模(世界規模1,300億円強)となり、とりわけ農林水産分野においては、農作物や水産物の成長促進、種子の発芽率向上、収量増加、鮮度保持、洗浄、養殖環境改善などへ応用拡大されてきています。また、ファインバブル技術はSDGs達成に貢献し、人々のウェルビーイング向上が期待されています。ファインバブル技術の国際標準化により新市場が創成され事業拡大につながりました。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構

日本の農業と食品産業の発展のための研究開発を行うだけでなく、研究開発の成果を社会に実装するため、標準化活動にも取り組む。



日本の試験方法を国際標準に

農研機構が中心となって進めてきた、遺伝子組換え作物の検査法に関する国際規格(ISO 22753:2021)が、2021年8月に発行されました。

規格には、遺伝子組換え作物が含まれているかどうかの定性検査の結果から、その混入率を統計的に評価する手法について、用語の定義や検査に求められる技術的な要件などが記載されています。

今回の国際規格の発行により、この検査法が国際規格に適合した方法であると国内外に認知され、農産物の国際貿易に広く利用されることが期待されます。これを通じ、わが国に輸入される農産物の品質管理や食品表示の一層の信頼性向上につながります。他にも、農業機械、スマート農業、食品品質等幅広い分野で国際標準化活動に取り組んでいます。

【Column】 JASを活用した市場獲得

昨今の日本食の普及浸透に伴い、海外におけるしょうゆの需要が増加しており、海外における日本食レストラン等でも高い品質のしょうゆが求められ始めています。

ヤマモリ株式会社では、日本で生産しているしょうゆと、味、品質、製造管理ともに同等の製品をタイの工場でも生産し、現地で販売しています。販売にあたり、タイ工場で生産したしょうゆが日本のしょうゆと同等であるという証明が必要であると考え、しょうゆのJAS認証を取得しました。

JASマークで日本品質をアピールすることができ、タイ国内での圧倒的なシェア獲得、タイ国内のみならず、アジア諸国、豪州への輸出も拡大しています。

このようにJASをそのまま海外で活用するという戦略をとることも可能です。



ヤマモリ株式会社のしょうゆ

今から始めるCSO設置

日本の企業を取り巻く状況

「第4次産業革命」の進展

- 個々の技術から、ビジネス・市場そのものを形作る標準化が進展

個々の技術中心の標準化

- 経営・事業戦略に国際標準化が位置づけられていない
- 業種横断的に、企業が連携できる体制を強化する必要がある

海外勢の積極的な国際標準化

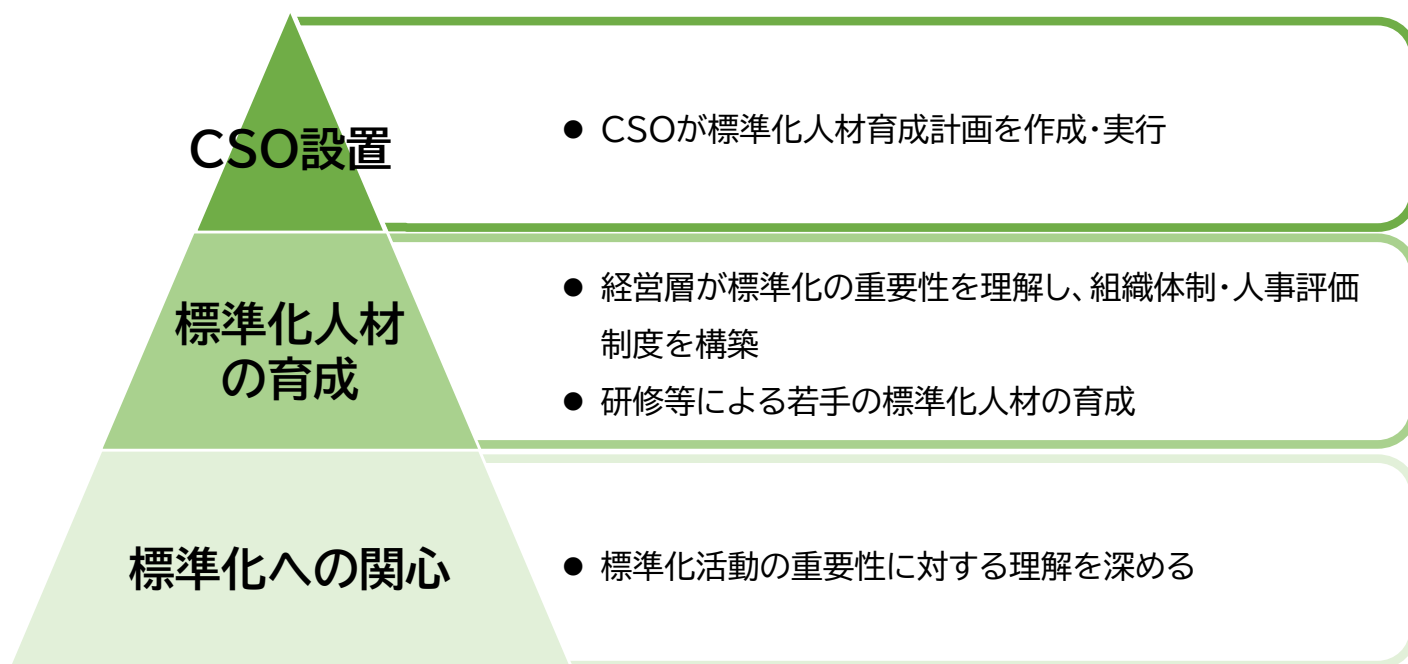
- 欧米:ルール形成戦略として国際標準化を推進
- 新興国:標準化を主導する動きが活発化(重要ポストの獲得)

経営層のルール形成に対する理解不足

- 組織体制・人事評価制度が整備されていない
- 若手へノウハウ・知見が継承されていない

出典:経済産業省資料

標準化のための体制づくり



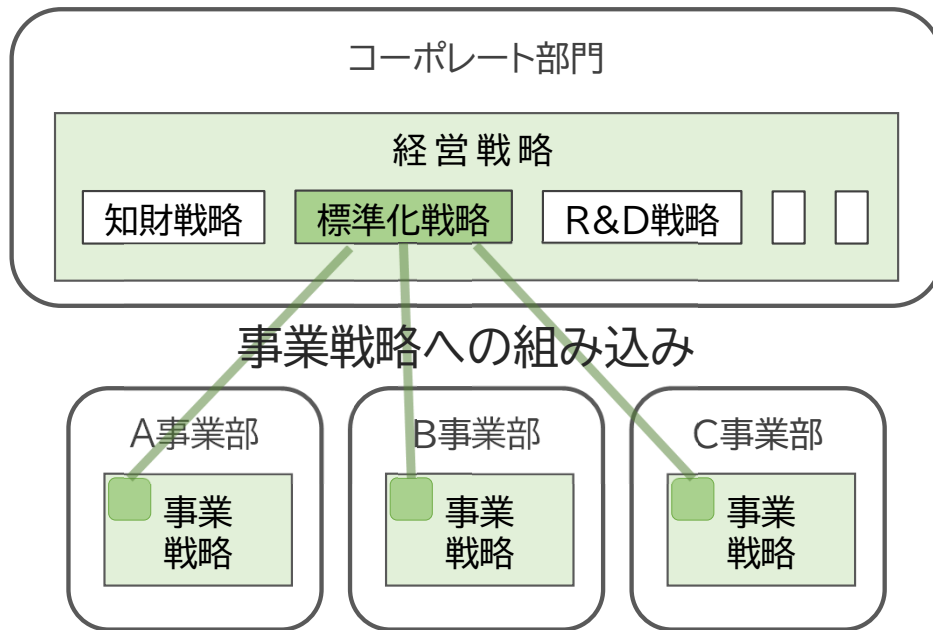
- ✓ 農林水産省及びFAMICではJASをはじめとした標準化に関するセミナー、経済産業省では標準化人材育成研修も定期的を開催しております。

CSO(最高標準化責任者)とは

Chief Standardization Officerの略

知財・標準化戦略を経営・事業の中に位置づけて戦略的に活用するため、標準化に関する全社的な戦略の推進を担う者

CSOの設置・役割のイメージ



- CSOを設置し、事業戦略に標準化戦略の要素を組み込む
- CSOの指揮の下、自社商品・取組について、標準化する or しない、標準化するならどの部分を標準化するかなどを検討・推進
- 他の各戦略と一体的に構築・運用するため、CSOは、CTO(最高技術責任者)等との兼任を推奨

出典: 経済産業省資料

標準化人材育成に力を入れている企業の声



経営戦略に基づく標準化活動を推進する担当部署を設置しています。また、会社全体の取り組みとして、標準化を推進する専門人材に対応した評価制度や、CSO担当の任命と名刺への掲示などを行っています。

ヤマト運輸株式会社

IDECでは、特にファインバブル分野の標準化のような「創成型」や「先行型」の国際標準化活動に注力しており、日本のリーダーシップで世界へ新たに提唱する国際標準化への関心が高く、採用時の研修だけでなく、OJTを通じて人材育成を継続的に行っています。



IDEC株式会社

相談窓口

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課 基準認証室

TEL:03(6744)2098

E-mail:jas_soudan@maff.go.jp

新たなJASの規格化相談窓口

http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_consul.html



独立行政法人 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)

【JASの制定に関するお問い合わせ】

規格調査部 規格調査課

TEL:050(3797)1846

E-mail:shohin_mailbox@famic.go.jp

JAS制定等に関する申出相談窓口

<http://www.famic.go.jp/syokuhin/jas/soudan/>



【認定・認証に関するお問い合わせ】

認定センター 認定審査課(JASaff)

TEL:050(3797)0133

E-mail:jasaff827@famic.go.jp

JASaffについて

<http://www.famic.go.jp/jasaff/>



電話受付時間:午前9時~12時/午後1時~5時
(土・日・祝日・休日及び12月29日~1月3日を除きます)

● JAS普及・イベント

<https://www.maff.go.jp/j/jas/hukyuu.html>

● YouTube - BUZZMAFF(突撃JASちゃんねる)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVc03uX0IwZvFG5FIxiugO81N98OUxXHz>

● YouTube - FAMIC JASチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCCy_U5H2Dcucnl1vPBbXm_g



発行 令和5年8月

発行者 農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課 基準認証室
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)
〒330-9731 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎検査棟

転載について

掲載した画像の無断転載・複製を固く禁じます。なお、本誌の内容を転載する際には、農林水産省基準認証室までご一報ください。